

エネルギー環境教育のひろば

北海道エネルギー環境教育研究委員会
広報誌
2008.06.30発行
第12号



平成20年度総会開催

組織と研究の充実を目指して

新三部体制で始動開始
第2回全道大会10月17日道南支部で開催

平成20年度総会が、5月17日(土)ホテルライフォート札幌で開催された。冒頭、谷委員長挨拶では、これからの活動の根幹に関わる内容の話があり、その後、吉谷副委員長から平成19年度の活動報告、及び平成20年度活動計画が発表された。また、各支部から活動報告と活動計画が発表され、全道大会に向けて道南支部が精力的に活動していることの報告があった。

谷委員長挨拶

今年3月小・中学校学習指導要領が告示されました。エネルギー環境教育は「エネルギー」を軸教材とする環境教育、あるいは「エネルギー」に関する内容を中心とする環境教育ととらえることが大切で、これからは「総合的な学習の時間」だけでなく、教科や、道徳、特別活動等において、基礎的あるいは発展的に取り組ん

でいくことが必要となっています。さらに、05年からは日本が提案した国連の「持続可能な開発のための教育の10年」が始まり、限りある資源を子孫に残し環境の保全を図っていくことが課題となってきました。現在、世界的な規模で進んでいるエネルギー危機や深刻化しつつある環境問題などを考えると、小・中学校段階から「持続可能な発展」について客観的に理解できる能

見直しについては、3部体制を維持しながらその活動内容の見直しははかられ、名称を開発・研究・広報としこれら本委員会の活動を円滑に進めるための新組織、新役員体制について、より機能的な体制をとりながら活動していくことが確認された。

地球温暖化対策 排出権取引で なぜ温室効果ガスが削減可能か

総会終了後講演会が行われた。講師は(株)三菱総合研究所 主席研究員 西村 邦幸氏で「排出権取引でなぜ温室効果ガスが削減可能か」というテーマの下、排出権取引に関する検討を身につけることが大切になっていきます。「持続可能な発展」はグローバルかつ長期的な視点から経済・資源・環境問題をいかに解決していくかが鍵になり、今こそ「開発と成長」をモットーに発展し続けてきた世界に「持続と調和」を重視する質的な変換が求められていると見え、そのことが本委員会のこれからの活動の根幹であるとも言えます。



お知らせ JUNEC主催 洞爺湖サミット3日セミナー

7月に行われる洞爺湖サミットでは、地球規模の課題について各国首脳が集まり話し合われる。それにあわせて、国連環境会議推進協会が、環境教育の推進や実践において指導的な役割を果たしている先生方を対象に、環境・経済・防災・危機管理等をキ

ーワードに、専門家を招いて「洞爺湖サミット プレセミナー」を開催します。
日時：平成20年7月25日(金) 15時～18時頃まで
場所：札幌グランドホテル(札幌市中央区北1条西4丁目)
参加費：無料
詳細はJUNECのホームページへ

北海道エネルギー環境教育研究委員会
連絡先
北海道エナジートーク21
札幌市中央区北1条西5丁目
北1条三井ビル2F
TEL-011(251)9710
FAX-011(251)3974
